

あそび

子どもは遊ぶことによって、全身のさまざまな機能や能力を発達させていきます。

子どもにとって「遊び」は「学び」そのものです。

あそびは、子どもの運動機能を発達させるだけでなく、五感や情緒、知的能力の発達にも深くかかわっています。自制心や協調性などは、友だちとのあそびを通して身につけていくもので、それによって対人関係も発達します。子どもが成長していく上で、あそびを切り離すことはできません。

あそびは「見る」ことから始まります。まだ玩具に手を伸ばすことのできない赤ちゃんでも、目で玩具をとらえ、じっと見つめます。このような時期には、動くものを目で追うあそびをたくさん行いましょう。同じ玩具を使うあそびでも、年齢の違いによりあそび方は違ってきます。

あそびを援助するとき保育士は、子どもがいまどのような発達段階にあるのかを正確に把握し、いっそうの発達を促すために有効なあそびを選ぶことが大切になります。



構成あそび



積み木や折り紙、ブロック、着せ替え人形など、子どもは大好きです。これは何かができあがっていく過程が面白いのです。自分のやったことに自分で驚いたり、楽しんだりしています。

発達とともに、大きいものや小さいもの、長いものや短いものの関係も分かっていきます。半分の長さのものを二つつなげれば、長いものと同じになるということも理解できるようになります。

こうして、平面が立体になり、奥行きということも理解し、お城を作れば、さらにお城の内部まで心を配るようになります。

幼児にとって大切なのは、作り上げた結果よりも作り上げる過程です。作り上げたものを長く保存しようという気持ちはあまり強くありません。構成する過程が面白いのと同じくらいに、崩していく過程にも大いに興味を持ちます。

保育士は、できばえの良し悪しよりも、子どもが熱中して取り組んでいるかどうかには指導のポイントをおいています。



構成あそび



《全体のポイント》

- ① 個のあそびから友だちとかかわるあそびへ発展させる
- ② 友だちとイメージを共有して、イメージを膨らませる
- ③ できればのよし悪しではなく、どれだけ熱中して取り組めたかを見る
- ④ 一人ひとりの子どもの気づきや発見を認め、大いにほめ自信に繋げる
- ⑤ 毎日同じあそびを繰り返しているようでも、子ども達にとっては毎日が新鮮なあそびである
- ⑥ 様々なものを使って組み立てる過程は、子どもがいろいろ考え、手指などを使って作り上げる能力として発達する
- ⑦ 一人ひとりが考える
- ⑧ 並べるから積み上げる、複雑に積み上げたり、仲間と協力したりルールを決めて遊ぶ

《人的環境》

- ・いつも見守ることが必要である
- ・保育士が子どもと一緒に楽しく遊ぶ
- ・個々の子どもの発達・発育状況をよく把握していてどんな経験が必要かを見極め一人ひとりに合った対応をする
- ・不安や緊張感を感じさせない

《物的環境》

- ・様々な材料や用具が容易に使えるように用意されている
- ・自由にあそびを発展させられる空間や場所などが確保されている
- ・じっくりとあそび込める時間が確保されている
- ・これまでの生活経験とかかわりのあるものを準備する

《あそびの種類》

- ・積み木、ブロック等一つの形を作り上げるあそび
- ・粘土あそび
- ・折り紙、切り紙、貼り絵
- ・思ったことや考えたことを絵にかく
- ・自然物（石・砂・土・木片・枝・葉・実など）を使ったあそび
- ・着せかえ人形

《大切にしたいこと》

あそびが発展するように教材、素材、教具を豊富に揃えておく

保育士も一緒に驚くとともに、評価する

大人の目で一般的な形になるような押しつけをしない

壊すことを禁止しない → 壊す楽しさを共感する

小さい子には保育士が作って見せる。興味をひかせる

一人ひとりが遊んだり、考えたりすることのできる空間や時間を保障する

組み立て、みんなと協力して大きいものを作る
友だちのすることを見て真似て遊ぶ
最初の予定がだんだん変わっていくことが多い

重ねる→高くなる。もっと高くするにはどうする？
つなげる→長くなる。短い積み木をつなげると長い積み木と同じ長さになる
崩す→どんな時に崩れるか？崩れない積み方の工夫、崩れ方の面白さ
壊す→意識的に壊す面白さ

できあがっていく過程がおもしろい
(造形の変化)

自分がやったことに驚く
(結果の変化)

作る過程でイメージする
(イメージ・あそびの発展)

壊す・崩すがおもしろい
(そのままできあがりを残しておくよりも形を変えることがおもしろい)

偶然できた形をどう見立てるか？
(イメージの膨らまし)

どんな場所でもできる

組み立てる、合わせる、重ねる、つなげる、分ける、崩す、壊すの繰り返し
(創造的表現と認識能力)



あそび
(0歳児)

＜ポイント＞

- ・特定の保育士との情緒的な絆をつくる
- ・一人ひとりに合わせた取り組みを大切にする
- ・発達過程を理解する
- ・心地よい時間と場所を確保する

子どもの姿

大人の動き・配慮

身の回りの物やおもちゃでひとりあそびを楽しむ

- ・見守ったり、相手になったりして遊ぶ

両手に物を持って打ち付けたり、たたき合わせたりして遊ぶ

- ・安全性を確保しながら、一緒に遊び、そのあそびを一緒に発展させる

手を伸ばして触り、口に持って行って感触を確かめたりして遊ぶ

- ・衛生面、安全性を常に配慮していろいろな素材を準備しておく
- ・手にしたものを飲み込まないように注意する



＜留意点＞

- ・安全面のチェック
- ・衛生面のチェック
- ・おもちゃの大きさは、4cm四方以上のものが望ましい

＜人的環境＞

- ・保育士が一人ひとりと丁寧に関わる
- ・いつも変わらない優しい言葉かけや援助を心掛ける

＜物的環境＞

- ・様々な素材を準備する
- ・場所を設定する
- ・それぞれが好きなおもちゃを把握して準備する
- ・数を揃える

あそび
(1歳児)

＜ポイント＞

- 自分でできる気持ちを大切に、自信を持たせる
- 保育士に見守られながら、一人あそびを十分に楽しむ
- 手や指をうまく使えるようになったり、歩けるようになってあそびの幅が広がる

子どもの姿

興味関心を持ったものに、触れたり、扉を開けて中身を取り出したりする

つまんだり、丸めたり、めくったり、はずしたり、なぐり描きをしたり手指を使って遊ぶ

友だちのしていることに興味を持って、真似をしてあそんだりする
(平行あそびの始まり)

大人のすることに興味を持ったり、真似をすることを楽しむ

大人の動き・配慮

- 自由に触れたり、すぐ取れるように色々なものを配置し、数も十分用意する
- 手に取ったものを飲み込まないように注意する

- 様々なあそびができるように、素材を準備する
- 保育士が手本を見せて遊ぶ

- 真似はするが、関わり合うことはまだないため、無理に関わらせようとせず、自分のあそびを満足できるまで楽しめるようにする

- 保育士がやって見せて楽しく遊び、子どもの楽しさを大きく膨らませる



＜留意点＞

- 個人差が大きいので一人ひとりの発育・発達状況を良く把握する
- 探索活動の広がり、予測できない行動も多くなるので、環境や活動の状態、子ども相互のかかわりには十分注意する
- おもちゃの大きさは4cm四方以上のものが望ましい

＜人的環境＞

- 丁寧に一人ひとりと遊ぶ
- 一緒にやって見せてあそび方を教える
- 必要以上に「危ない・ダメ」と好奇心を阻害しない
- 共感することで興味を広げる

＜物的環境＞

- あそびやすい場を作る
- おもちゃは人数分用意する

あそび
(2歳児)

＜ポイント＞

- ・自我の育ちをきちんと受け止める
- ・想像力を遊びにも活かせるようになる
- ・自分を認め見守ってくれる大人の存在によって感情を鎮め、気持ちを立て直せる

子どもの姿

大人の動き・配慮

紙をちぎったり、破いたり貼ったりして遊ぶ

- ・十分な材料を用意する
- ・できたものを保育士が認めほめる

水・砂・土などの自然素材に触れて遊ぶ

- ・保育士と一緒に遊び、あそび方を教えたりする

なぐり描きをして遊ぶ

- ・保育士がそばで見守り、できたものを認めほめる

積み木を積んだり、並べたり崩したりして遊ぶ

- ・保育士がやってみせたり繰り返したり、一緒になって遊ぶ

ブロックをつなぐ、はすす、はめるなどして形を作って遊ぶ

- ・保育士と一緒に遊び、できたものを認めほめる

＜留意点＞

- ・子ども同士のけんかが多くなるので双方の気持ちを受容し、わかりやすく仲立ちをしていく
- ・衝動的な行動や動作が多くなるので、子どもから目を離さない

＜人的環境＞

- ・保育士があそびの手本を示す
- ・保育士が仲立ちをして遊ぶ
- ・好奇心を阻害しないように、聞かれたことにはしっかりと答える

＜物的環境＞

- ・あそびがじゃまされないような、スペースを確保する
- ・おもちゃ類の数量を十分確保する



構成あそび

(3歳児)

子どもの姿

粘土を十分手でこねて感触を味わいながら好きな形を作って遊ぶ

積み木やブロックあそびは、作ったり壊したりの繰り返しでさまざまに形を変えて作って遊ぶ

新聞紙をちぎったり破いたり丸めたりして楽しく遊ぶ

○△■などの色紙を組み合わせて様々な形を作ったり台紙に貼ったりして遊ぶ

好きな絵を描いて遊ぶ
(丸や四角を描く・はさみも使える)

木の葉や実を使っていろいろな形を作って遊ぶ

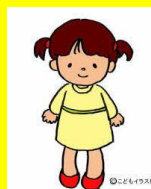
砂場で砂の感触を味わいながら砂あそびを楽しむ

〈配慮点〉

- できたものを大いにほめる
- 友だち同士のけんかが起きた時、双方の話を聞き、納得がいくように仲立ちをする
- 安全面、衛生面の配慮をする

〈人的環境〉

- 保育士がやってみせる
- あそびの提案をする
- あそびの中に入っていつでも見守っている



〈物的環境〉

- 場所を確保する
- 様々な材料、素材、遊具などを十分に揃えておく
- 時には見本を見せる

〈ポイント〉

- 一人ひとり思い思いに楽しむ
- 形がどんどん変わることを楽しむ
- 手先をたくさん動かせる活動を積極的に取り入れる
- 指先を動かすことは、知能の発達にもつながる

大人の動き・配慮

• できあがった作品をおいしそうに食べる姿などを見せて、子ども達におもしろいという喜びを味あわせる

- 十分な種類と数量を用意し、保育士がやって見せるなどしながらあそびを発展させていく
- 壊すことも楽しさの一つと認める

• 十分な量の新聞紙や広い場所を用意して、全身を使って破いたりして遊べるようにする

- 十分な種類と数の色紙を用意する
- 保育士がやって見せる

• いつでも好きなように描くことができる環境を整えておく(場所やとりだし方の工夫)

- 散歩の時などに集めてきて使う
- できあがった作品をみんなで飾り楽しむ

• 保育士と一緒に遊び、手本を見せながら、作り方を学ばせて友だちと一緒に楽しめるように仲立ちをする

構成あそび

(4歳児)

<ポイント>

- 作ったものからイメージが広がり、他のあそびに発展できる
- だんだん形作られていく造形の変化を楽しみ、うまくいかなければ壊してまた作り上げる

子どもの姿

砂場で友だちと役割分担しながら山や川（海・池）などを作って遊ぶ

友だちと一緒に積み木やブロックで様々な形を作り上げたり、壊したりしながら、変化を楽しんで遊ぶ

散歩などで気に入った自然物を持ち帰り、色々なものを作って遊ぶ

木片を使って組み合わせたり、釘を打ったりして遊ぶ

ダンボールを使ってお家ごっこやめいろあそびをする

思ったことや感じたことを絵に描いて遊ぶ
力の入れ加減で表現が違うことに気付く

牛乳パックや空き箱の形から車や電車に見立てて道路や線路を広げながら遊ぶ

大人の動き・配慮

• ジョウロやバケツ・スコップなど、道具を十分に用意する

• トラブルが起きたときはよく話を聴き、双方が納得できるように仲立ちをする

• 一人ひとりが自由に作業できるように環境を整える

• 道具の使い方を丁寧に伝え、危険のないように見守る
• イメージが膨らむよう様々な材料を用意する

• 大きささまざまな大きさや形のダンボールを用意する

• いつでも好きなように描ける環境を作っておく
• マーカーや色鉛筆など、様々な画材を用意し与える

• たくさんの材料を用意する
• 広げて遊べる場所を確保する

<留意点>

- 子ども達が自分からやりたいと言い出したことを尊重して、見守りながらうまくいくように援助する
- 友だち同士の対立は、よく話し合いをさせ納得できるように仲立ちをする

<人的環境>

- 近くで見守る
- 不必要な口出し、手出しはせず、子どもの発想を大事にする



<物的環境>

- 広くて十分に遊べる空間を用意する
- 十分な素材と材料を用意する
- たっぷり遊び込める時間を確保する

構成あそび

(5歳児)

<ポイント>

- 子ども達が協同しながらイメージの世界を構成していく
- 効率よく役割分担をして、より多様なあそびを展開していく

子どもの姿

折り紙をしたり、切り紙を作ったり、絵を描いたりして遊ぶ

ダンボールを使って、友だちと考えを出し合って工夫して遊ぶ
(迷路・お化け屋敷など)

木片を組み合わせたたり、組み立てたり、釘で打ったりして作品を作る

牛乳パックを使い、道路や線路を広げ、町づくりを楽しむ

砂場で友だちと協同して様々なおもちゃを組み合わせて作り上げる

友だちと協同して、様々なおもちゃを組み合わせて作り上げる

自分達で人形を切り抜き、着せ替えあそびを楽しむ

大人の動き・配慮

• 自由に出し入れできる場所を作り、いつでも好きな時にあそびが始められるようにしておく

• 継続してあそびができるコーナーを作る
• 大小様々なダンボールを用意する

• 様々な大きさの木片を用意する
• 釘打ちや木片の合わせ方を教えるが一人でさせてみる
• でき上がりを認め、大いにほめる

• 大きな町を作れるようにあそびの継続や広がりに対応できる場所と時間をつくる

• 十分な道具の準備をする
• 年下の子ども達への安全を配慮する
• 砂場は自分達だけで使っているのではないことを気づかせる

• 感性と創造力、作り上げる意欲を育てるために、作ったり、壊したりする経験を十分にさせる

• 自由に出し入れできる場所を作り、いつでも好きな時にあそびが始められるようにする

<留意点>

- 年下の子ども達への配慮を話し合い、行動できるように促す
- 楽しく遊ぶためのルールを事前に確認し合う

<人的環境>

- 子どもの想像力や発想の力を信じて見守り、必要なら、そこが十分活かせるようなアドバイスをする

<物的環境>

- 十分な素材と材料を用意する
- 広くて十分に遊べる空間と遊び込める時間をつくる



ごっこあそび (室内あそび)



ごっこあそびとは・・子どもたちがイメージを共有し
テーマにそって役割を分担して楽しむあそび
ごっこあそびで育まれる力

- ① 愛情の体験の確認。身近な大人にしてもらったことを自分がやってみて、その体験を自分の中に取り込むことで自己肯定感や心の安定になる。
- ② ファンタジーの体験。例えば布1枚でおひめさまやヒーロー等になれば、現実生活ではできない体験から想像力を育み存分にあそぶ喜びとなる。
- ③ 言葉を使ったコミュニケーション能力が育つ。ごっこでの役割のあるやりとりは、言葉を使ったコミュニケーションの体験となり、イメージを共有しながら会話を楽しむコミュニケーション力を育む。
- ④ 生活に必要な知識や知恵を体得していく。ごっこをする中で次々にアイデアが生まれ変化し、生活の中で見聞きしたことが活かされ再現されることで、社会の仕組みや意味に気付く。
- ⑤ 自分の周りの人との存在を確認し社会性が育つ。例えば、お医者さんごっこでは医師・看護師・薬剤師が登場し、このあそび体験から仕事をする人や家族の役割を意識し自分も社会の一員である認識につながる。
- ⑥ 表現力、想像力が育つ。必要な道具を自分たちで作り出すことでイメージを表現でき、子どものこうしたい・こう作りたいという思いが形になる表現活動になる。



ごっこあそびがうまれる大切なポイント

まず、「もの（遊具・材料・道具）」と「環境」と「空間」を整えてみる。そして、「人（仲間・保育士・親等）」がいること。

どれか一つのポイントではなく、これらがからみ流れのある動きとなりごっこあそびが始まる。イメージが少ない低年齢児ほど「もの」「環境」「空間」があることが重要となる。



ごっこあそび（0歳児）
0歳児はごっこあそびの基となる「模倣からしぐさ
でやりとりするあそび」です

＜ポイント＞

- ・しぐさでやりとりする
- ・あそびのやりとりを大切にする

子どもの姿

大人の動き・配慮

「いないいないばあ」をすると「ばあ」を期待し喜ぶ

- ・「ばあ」のタイミングを工夫し、やりとりを楽しむ
- ・あやす→喜ぶ、のやりとりで大人との愛着関係を深める

「バイバイ」「どうぞ」のしぐさを
するようになる

- ・子どもにわかりやすいジェスチャーで「バイバイ」「どうぞ」のやりとりを繰り返す（子どもはやりとりから人のしていることを観察し再現することができる）

おもちゃを「どーじょ」と言葉を添えて渡そうとする

- ・「ありがとう」「いただきます」等の丁寧な応答・言葉添えをし、応答的な関わりからあそびの豊かさを増していく

「人形の口を拭く」「布団をかける」等世話をする

- ・動きを見守り、見立てる力を膨らませる言葉掛けをする（「きれいになったね」「ねんねねえ」等）

＜留意点＞

- ・おもちゃは舐めても安全な素材を選び、見やすい鮮やかな色彩にする
- ・おもちゃや遊ぶ環境の衛生管理に留意する
- ・おもちゃは子どもの満足度を重視し人の温もり感ある手作りが望ましい

＜人的環境＞

- ・1対1の関わりを大切にしていく
- ・一人ひとりの生活リズムを大切にし安心、安定した中で遊べるようにする
- ・一人ひとりに適したあそびを支援する

＜物的環境＞

- ・あそびの変化や成り立ちを観察し必要なおもちゃ（布・人形等）を用意する
- ・あそびが自然に展開できる室内を作り、あそびの様子から適宜おもちゃの入れ替えをする

ごっこあそび（1歳児）
ごっこあそびのカウントダウンである「見立て
あそび期」です

＜ポイント＞

- ・模倣できるようになり、身近な生活を再現して遊ぶ

子どもの姿

カップにおもちゃを入れ、パクパク食べる真似をして遊ぶ

ブロックや積み木を携帯電話に見立てて遊ぶ

ぬいぐるみや人形に布団をかけて寝かせる

容器を使って物を入れたり出したりして遊ぶ

大人の動き・配慮

- ・「おいしいね」等、同じ動きをして共感する
- ・目線を合わせる等、寄り添う姿勢を大事にする

- ・「もしもし」等応答しながら共に楽しみ、やりとりを膨らませる
- ・見立てあそびからわかるコミュニケーションの楽しさを体験させる

- ・世話あそびのはじまりであり、見守ることが大切である
- ・求められた時等、状況により声かけをする

- ・入れ替えを満足して行えるよう見守る
- ・子どもがあそび込めるよう同じ物を複数用意する等の配慮をしておく

＜留意点＞

- ・友だちと何でも同じことをしたがるので、おもちゃを人数分用意し、噛む、叩くなどのトラブルにならないようにする
- ・おもちゃは子どもにわかりやすく置き、あそび込める環境にする

＜人的環境＞

- ・友だちと同じあそび（テーマ）が共有できるように成り立ちを見守る
- ・あそびの成り立ちから見て必要なら介助する（丁寧に支援する）

＜物的環境＞

- ・子どもが好きなあそびを選び、落ち着いて遊べるように設定する
- ・使いやすい大きさのおもちゃを用意する



ごっこあそび（2歳児）
 ○○のつもりといった「つもりになる」
 あそびが出てくる時期

<ポイント>

- ・お世話あそび、料理などの簡単なごっこあそびが始まる

子どもの姿

大人の動き・配慮

人形にご飯を食べさせたり、おんぶをしたり、布団に寝かせたりする

- ・「自分以外の他者」を意識し始めるこの時期ならではの「お世話あそび」を見守る
- ・要求を満たし、十分楽しませる

保育士を子ども役にして、食事を作ったり寝かしつけようとする

- ・お世話あそびの広がりと一緒に楽しむ
- ・応答的なかわりを丁寧に育み、豊かな人間関係の生活を支援する

テーブルに食べ物を入れたコップやお皿を並べ、「いただきます」と言いながらやりとりを楽しむ

- ・あそびを膨らませるアイテム（スカート・エプロン等）を渡し、一緒に楽しむ
- ・モデルになって共にあそぶことで、よりイメージしやすくなるよう支援する

友だちとお気に入りの人形を並べ、同じようにお世話あそびをする

- ・友だちとのやりとりを楽しめるよう常に考え対応する
- ・まねっこを大いに楽しむこの時期の模倣力を大切にする

イメージが膨らみ、自分の家に見立てて、簡単なごっこあそびが始まる

- ・個々が満足して遊べるようにし、他児へのイメージの共有を心掛ける
- ・コーナーを設置し、子どもが「つもりの世界」に入っていけるようにする

〈留意点〉
 ・「つもりになる」「○○の真似」等のあそびがたくさん楽しめるように、空間の工夫やあそびが共有できる環境を設定する

〈人的環境〉
 ・友だちとぶつかり合いが生じた時、保育士が気持ちを代弁し仲立ちをする
 ・保育士があそびのモデルになり興味や関心を膨らませる

〈物的環境〉
 ・使ったおもちゃを片づけられるようおもちゃの場所をわかりやすく表示し、コーナーの高さは子どもに合った低いものにする

ごっこあそび（3歳児）
 ※3～5歳児は、ごっこあそびが展開して
 いくようすをガイドします

＜ポイント＞

- ・自分から自分たちへと意識が芽生えあそびの満足感を大切にする

子どもの姿

大人の動き・配慮

（お医者さんごっこ）
 全員が医者になり、人形やぬいぐるみに注射等の処置をする

（お店屋さんごっこ）
 おもちゃを料理に見立ててお皿等にのせて、友だちや保育士に渡したり運んだりして遊ぶ

（おうちごっこ）
 お母さんのつもり、赤ちゃんのつもりになり、その人になりきることを喜ぶ

（発表会ごっこ）
 自分の役を繰り返し演じ、同じ展開を楽しむ

- ・子ども同士の関わりを大切にする（友だちと一緒にの楽しさを実感できることが大事）
- ・必要に応じて保育士があそびのモデルになる
- ・おもちゃや道具の数は、余裕を持って準備する（順番に使うのが難しい）
- ・自由にごっこあそびが展開できるよう、おもちゃや道具はすぐに使えるところに置く

- ＜留意点＞
- ・保育士が主導権をとるのではなく、子どもが創造的欲求を表現できるようにする
 - ・イメージが膨らみやすいシンプルな素材を使う。形のきまったものよりシンプルな素材の方がよい

- ＜人的環境＞
- ・身の周りの大人の行動を再現するので、丁寧に関わっていく
 - ・身近な経験を再現するので、生活体験を大切にする

- ＜物的環境＞
- ・コーナーを必要に応じて設置する
 - ・あそびに必要なおもちゃや道具を揃える
 - ・目の行き届くコーナーを作る

ごっこあそび（4歳児）
 ※3～5歳児は、ごっこあそびが展開していく
 ようすをガイドします

＜ポイント＞

- ・創造力、言語力、意欲等が高まる
 「ごっこあそび黄金期」である

子どもの姿

大人の動き・配慮

（お医者さんごっこ）
 医者、看護師、患者等の役を登場
 させ、友だち同士楽しむ

（お店屋さんごっこ）
 料理を作る真似をし、おつりを渡
 したり、自分なりのお店屋さんの
 つもりを楽しむ

（おうちごっこ）
 お母さんらしく、赤ちゃんらしく
 等アイデアを出し合いながら、イ
 メージ通りのあそびを友だちと
 楽しむ

（発表会ごっこ）
 他の子どもが演じた役をやりたが
 り、順番に役を代えながら遊ぶ展
 開を楽しむ

- ・友だちと一緒にイメージを共有
 できるあそび体験を大切にする
- ・ルールを伝え、見守る
- ・必要に応じて言葉かけをする
- ・ルールや役割が理解できない子
 どものフォローをする（仲立ち
 やその子どものペースであそび
 に入れるタイミングをとる）
- ・あそびの広がりを大事に捉える

＜留意点＞

- ・友だちと一緒にイメージを共
 有し遊べる体験を大事にし、
 必要な言葉かけをする
- ・保育士は子どもが「何を見立
 て、誰のつもりになっている」
 のか思いをめぐらせ、子ども
 の気持ちに丁寧に寄り添い必
 要な援助をしていく

＜人的環境＞

- ・あそびのルールや役割
 を理解し、イメージで
 できるように工夫して
 伝えていく
- ・子どもが「何をイメー
 ジしているのか」を考
 え、必要なものを準備
 する

＜物的環境＞

- ・子どものイメ
 ージを表現
 できる素材、
 道具、空間を
 作る（コーナ
 ー作成とそ
 の利用）

ごっこあそび（5歳児）
 3～5歳児は、ごっこあそびが展開していくよ
 うすをガイドします

＜ポイント＞

- ・あそびにストーリーや道具の工夫も生まれテーマの共有、展開、持続がある

子どもの姿

大人の動き・配慮

（お医者さんごっこ）
 診察券をつくり、薬局が登場する
 など、道具を本物らしくしながら
 みんなで遊ぶ

（お店屋さんごっこ）
 お客さん役や、店舗が増え、役割
 やストーリーを作りながら友だ
 ちと関わる

（おうちごっこ）
 うちの人役がリアリティーを求め、
 お母さんの持ち物や赤ちゃんグッズ
 等自分達で工夫し道具作りをする

（発表会ごっこ）
 演じたことを膨らませたり、スト
 ーリー外の内容を入れたり、自分
 達で発表会を創る展開を楽しむ

- ・友だちとイメージを共有し、同じ目的で遊ぶ体験を大切に
- ・子ども同士のやりとりを尊重する
- ・子どものあそびが創意工夫へと発展していけるよう配慮する
- ・子どもがあそびに必要な道具を作りたいと思った時、すぐに作れる環境を設定しておく

＜留意点＞

- ・ごっこあそびのリアルさを要求するので、できるだけ本物を用意し本物に近い状態を作る（大人と同様のものを使える喜びは自己肯定感に繋がり、身近な大人の真似は大人との愛着関係が形成される）

＜人的環境＞

- ・あそびの展開から何を必要としているか見極め考慮する
- ・子どもの思いを、先回りすることなく尊重する

＜物的環境＞

- ・製作コーナーを作り様々な材料を用意する。
- ・子どもが作り出す環境を大切に考え、設定する（子どもの手の届くところ）

ごっこあそび
(おもちゃ参考)



〈0歳児〉

- にぎにぎ
- 小さな布
- 丸スズ
- お手玉
- タオル人形
(小さいもの)
- 重ねコップ
(入れ物に使える)

〈1歳児〉

- 初歩的なお世話あそび
のための人形
- ぬいぐるみ (抱っこで
き柔らかく使いやすい
大きさのもの)
- 布団
- 布 • お手玉
- 重ねコップ
- プラステン

〈2歳児〉

- ままごとセット
- 乳児用流し台
- 食器
- 調理器具
- お手玉
- 大ビーズ
- 役ごっこセット
- エプロン
- スカート
- バッグ
- お世話あそびセット
- ぬいぐるみ
- 人形
- 布団



〈役ごっこセット〉

- レジスター
- ドレッサー
- バッグ
- ぬいぐるみ
- 人形
- 人形用ベッド

〈お世話あそびセット〉

- 人形 (抱ける大きさ)
- おんぶひも
- 大小の布
(大→エプロン・ドレス・マント
になり変身できる)
- (小→包むものや人形にまき服
となる)

〈ままごとセット〉

- 幼児用流し台
- 食器
- 調理器具
- 冷蔵庫
- 電子レンジ
- お手玉
- チェーンリング
(食べ物の形をしたものより、
イメージが膨らみ、
あそびの幅を広げる)



園庭あそび

園庭は、子どもにとって安心安全で、思いきり全身を動かして遊ぶことのできる空間です。また、自然の不思議さやおもしろさに満ちており、子どもに多くの興味や関心を抱かせます。

進んで体を動かし、様々な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむことで、身体の諸機能の発達が促されます。

主体的な活動を十分楽しむことで、満足感や達成感が得られ、自発性や探索意欲を高め、豊かな感性とともに好奇心、探求心や思考力が養われます。そのためには、子どもたちの関心や欲求・意欲を十分満たす環境づくりが必要です。

乳児にとっても、外気に触れることは大切であり五感を通して様々な感覚や知覚を得ていきます。一人ひとりの子どもの健康状態を把握した上で、紫外線の対策に配慮しながら、戸外で遊ぶことの心地よさを十分味わうことができるようにしましょう。

信頼できる保育士の見守りがあってこそ十分に遊び、友だちとの関わりを深めていきます。



園庭あそび
(0・1・2歳児)

<ポイント>0歳児

- ・自然(風・光・雲・空・草木等)の心地よさや開放感を共有し、共感しながら信頼関係を築く。
- ・複数担当でも基本的な対応は、1対1とする。

<ポイント>1・2歳児

- ・自分から、自由に体を動かせるよう配慮する。
- ・探索活動を通して経験を広げる。
- ・季節感を味わいながら感性を豊かにする。
- ・保育士と一緒に楽しみ、遊べる支援を行う。

子どもの姿

砂に触れ感触を楽しむ
水や泥に触れ心地よさを味わう

固定遊具で遊ぶ
泥山を上り下りする

コンビカー(乳幼児乗用車)や三輪車を押したり乗ったりして遊ぶ

小石や小枝等を集める
日差しや風の心地よさを感じる

敷物の上で大人と一緒に過ごす
ベビーカーや避難車に乗って過ごす

大人の動き・配慮

- ・一人ひとりの興味、関心に共感しながら見守り対応する
- ・側で見守り、口に入れたりしないよう安全面衛生面に配慮する

- ・一人ひとりの発達を見極め、手足の使い方・力の入れ方等を伝える
- ・他児との関わり方を伝える

- ・一人ひとりの子どもとあそびを共有しながら、道具の使い方を見せる

- ・安全面衛生面に気を付けながら、満足できるようにそばで見守る
- ・一緒に見て感じたものに共感し言葉にしていく

- ・手を振る、膝にのせる、目を合わせる、話しかける等の動作を行う
- ・一人ひとりの興味や関心に、表情や言葉で応える

<留意点>

- ・変わりなくいつも優しい言葉かけと穏やかな対応をする(0歳児)
- ・大きな声等子どもを不安にする行為を慎む(0歳児)
- ・一人ひとりの発達状況や体調を把握して対応する(1、2歳児)

<人的環境>

- ・担当保育士がかかわる(0歳児)
- ・一人ひとりとかかわれる時間や場面を作り、信頼関係を深める(1、2歳児)
- ・一人ひとりの子どもの自主性を大事にし、動きやあそびに応じる
- ・あそびが見つけれられるよう支援する
- ・かかわり言葉で個々のあそびをつなげる

<物的環境>

- ・周囲の安全をチェックする(0歳児)
- ・風や光等の刺激の強さを考慮する(0歳児)
- ・探索活動が安全に十分行えるよう園庭を整える(1、2歳児)
- ・友だちと共感できるよう、おもちゃや道具の数をそろえる(1、2歳児)

園庭あそび
(3歳児)

<ポイント>

- ・個々から友だちや集団への移行期なので、順番や交代の方法、貸し借りのかかわり言葉を丁寧に示し伝える。
- ・遊具の使い方、体の動かし方等、一つひとつを実際に関わりながら伝える。

子どもの姿

手足だけでなく全身で水や砂・泥に触れて遊ぶ

固定遊具で遊ぶ
(ブランコ・鉄棒・滑り台
ジャングルジム・上り棒)

キックボードや三輪車に乗って遊ぶ
ボールで遊ぶ
長縄跳びで遊ぶ

季節を感じ自然に触れて遊ぶ
(草・花・実・種子・石・氷・霜柱・雪・虫等)

保育士や友だちと簡単なルールのあるあそびを楽しむ
(かくれんぼ・鬼ごっこ・かごめかごめ等)

大人の動き・配慮

- ・大人と一緒に遊び楽しさを共有しながら、型抜きや団子作り、穴掘り等の見本を示す
- ・冷たい、べたべた、ヌルヌル等の感触を全身で味わって遊び込めるようにする

- ・子どもの意欲を大切にしながらも、遊具の安全な使い方や、順番を待つ等を教え、危険のないよう見守る

- ・乗り方や交代で使うことを伝える
- ・蹴る、投げる、追いかける等が楽しめるよう配慮する
- ・子どもの発達に合わせて縄を動かす
- ・上達を認め、褒めて自信に繋げる

- ・あらかじめ摘んでよい草花を知らせる
- ・摘む、拾う、つまむ、集める、運ぶ等、個々のあそびが深まるようにする
- ・興味や関心を大切にしながらも、生き物であることを伝える

- ・隠れる、鬼になって見つける等のルールや遊びの中での役割を伝える

<留意点>

- ・安全に遊ぶルールや決まりを、分かりやすく伝える
- ・保育士も一緒に遊びながら楽しさを伝える
- ・遊具等、常に子どもが使い易い状態を保つ

<人的環境>

- ・保育士も一緒に遊び、楽しさを共有することで信頼関係を深めていく
- ・頑張ったことや出来たことの一つひとつを認めて褒め、子どもの自己肯定感を育てる

<物的環境>

- ・定期的に砂場の衛生管理や掘り起こしを行う
- ・固定遊具の安全確認は、点検表により毎月行う

園庭あそび
(4・5歳)

<ポイント>

- 広い空間で思う存分体を動かせるための安全対策を行う
- 自主的、自発的体験がいつでも行えるよう環境を整える
- 発達を促す遊びの提供と保育士自身が表情豊かに参加する等の関わりを持つ

子どもの姿

砂場で友だちと山やダムを作って遊ぶ
全身を使って水あそびや泥んこあそびをする

安全に気を付けルールを守って固定遊具で遊ぶ
自分なりの目標を持って繰り返し挑戦する

キックボードや三輪車等に乗って遊ぶ

季節を感じ自然に触れて遊ぶ
(草・花・実・種子・石・氷・霜柱・雪等)
虫を探し図鑑で調べたり飼育したりする

友だちとの集団遊びを楽しむ
(かくれんぼ・鬼ごっこ・ドンジャけんけん・ドッジボール・サッカー・野球等)

大人の動き・配慮

- 砂山にトンネルを掘ったり水を使ってダムを作ったり等、遊びの展開を促す
- 友だちと力を合わせる経験ができるように配慮する
- 手、足、全身で水や泥の感触を味わう楽しさを伝える
- 昨日より今日、今日より明日と継続的なあそびの深まりと達成感を大切にする

- 手足の使い方や力の入れ方、安全に気を付けルールを守って固定遊具で遊ぶことを個々に伝える
- 関わる過程で沢山褒め、自信に繋げる

- スピード感やスリル等を味わい十分に遊び込める空間を作る
- 子ども同士のイメージを大切にする
- 順番や交代等も教える

- 子どもと一緒に楽しむ
- 発見や工夫ができるような環境を整える
- 子どもの興味や関心を大切にする
- 生き物であることを伝え大切に扱えるよう見守る

- 子ども達から自発的に始まる集団あそびは、静かに見守る
- ルールのあるあそびは事前に分かり易く教え一緒に行く
- 決まりやルールを守ることで、楽しく遊べることを伝える

<留意点>

- 楽しく遊ぶための大人の役割と子どもの役割を整理し、ルールや決まりを伝える
- 子ども自身が行うべき、友だちへの配慮やかかわりを分かり易く伝える

<人的環境>

- 子どもの活動を認めて褒める等を繰り返し自己肯定感を育てる
- 子ども自身があそびを考え深められる環境を整える
- 子どもたちの活動の状況に応じ、関わりや見守り等の対応を考える
- あそびに入れない子どもへは積極的に働きかける

<物的環境>

- すべての子どもが十分に遊びこめる空間を作る
- 季節や天候等を考慮した設定と準備を行う
- 定期的に砂場の衛生管理や掘り起こしを行う
- 固定遊具の安全確認は、点検表により毎月行う